

第1・2学年



道徳ではこんな学習をします



道徳教育は

人間が本来もっている「よりよく生きたい」という願いや「よりよい生き方を求め実践する人間」の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

小学校では、人間としてよりよく生きるために共通の心構えや行動の仕方をさまざまな体験や学習を通して学びます。基本的な生活習慣やルール・モラルの指導をしたり自然体験活動やボランティア活動などの体験活動をしたりして道徳性の育成を図っていきます。

道徳性とは

人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。

人間が人間として共によりよく生きていく上で最も大切にしなければならないものです。

道徳教育の評価

道徳教育における評価は、児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し勇気づける働きをもつものです。観察や面接、質問紙、作文などを利用して道徳性の共感的理解に努め、その結果を指導に生かすようにしています。

道徳の時間に関しては、数値などによる評価は行いません。

学校では

道徳教育の目標、道徳の時間の目標に基づいて道徳教育の全体計画と年間指導計画を作成しています。

さらに、学級では、学級における指導計画を作成するなどして道徳教育の充実に努めています。

また、道徳教育の指導にあたって、教師と児童の信頼関係及び児童相互の人間関係を深めたり、家庭や地域社会と連携したりして道徳的実践の充実に努めています。

学校ではこれらの内容を全体にわたって指導しますが、児童や学校・学級の実態、特色などを考慮して、さらに重点的に指導していきます。

道徳の時間は

1. 主として自分自身に関すること

(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

(2) 自分でやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。

(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。

(4) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

2. 主として他の人とのかわりに関すること

(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。

(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。

(3) 友達と仲良くし、助け合う。

(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。

3. 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること

(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。

(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。

4. 主として集団や社会とのかわりに関すること

(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。

(2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

(3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。

(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。

(5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。